

ボーナス交渉・収入動向

11/1、本部はボーナス交渉・収入動向を行いました。以下、報告します。
まず、営業部から、営業成績（平成29年度上半期）を説明。

1. 収入動向

コンテナは、ドライバー不足を背景に鉄道へのシフトが進んでいる積合せ貨物が好調に推移したほか、国内自動車販売台数の増加に伴って自動車部品も堅調に推移した。一方、紙・パルプが新聞紙・コート紙の需要減少および一部工場の定期修繕実施月変更等により低調となったものの、コンテナ全体では対計画+3百万円となった。車扱は、石油が配送圏の見直しに伴い鉄道へのシフトが進んだことから好調に推移し、車扱全体では対計画+270百万円（105.2%）となった。コンテナ・車扱の合計では、対計画+273百万円（100.4%）となった。

- ・コンテナ ドライバー不足を背景に鉄道へのシフトが進んでいる積合せ貨物が、東海・九州地区間をはじめ全国的に好調となり+381百万円となったほか、国内新車販売台数の増加に伴い、自動車部品も東海・東北地区間を中心に堅調に推移し+366百万円となった。一方、紙・パルプが印刷紙・コート紙の需要減少および定期修繕実施月変更等により△418百万円となった。また、食料工業品では28年産ビート不作により砂糖の出荷や8月中旬以降の気温低下に伴い清涼飲料水の出荷が落ち込んだことから△241百万円となったほか、農産品・青果物も28年産不作の影響で△83百万円となった。その結果、コンテナ全体では+3百万円（100.0%）となった。
- ・車扱 石油が配送圏の見直しに伴い鉄道へのシフトが進んだことから好調に推移し、車扱全体では+270百万円（105.2%）となった。

【対前年との比較】

[対前年+2,932百万円（105.0%）]

- ・コンテナ ドライバー不足を背景に鉄道へのシフトが進んでいる積合せ貨物が、東海・九州地区間をはじめ全国的に好調となり+705百万円となったほか、国内新車販売台数の増加に伴い、自動車部品も東海・東北地区間を中心に堅調に推移し+513百万円となった。また、前年台風の影響を受けていた農産品・青果物が+356百万円、菓子類等の輸送が好調であった食料工業品が+239百万円、化学工業品+146百万円、化学薬品+167百万円、エコ関連物資+74百万円と多くの品目で前年を上回った。一方、紙・パルプが印刷紙・コート紙の需要減少および定期修繕実施月変更等により△175百万円となったが、コンテナ全体では+2,664百万円（105.0%）と前年を上回った。
- ・車扱 石油が配送圏の見直しに伴い鉄道へのシフトが進んだことから好調に推移し、車扱全体では+269百万円（105.1%）と前年を上回った。

2. 輸送量動向

上半期は、6月下旬から7月中旬頃にかけての全国各地での大雨、7月下旬の東海道線送電障害、8月上旬の台風5号の接近および9月中旬の台風18号の影響等により、全体で高速貨675本、専貨8本が運休となった（前年同期間は、高速貨969本、専貨12本が運休）。コンテナについては、ドライバー不足を背景に鉄道へのシフトが進んでいる積合せ貨物が、東海・九州地区間をはじめ全国的に好調となったほか、国内新車販売台数の増加に伴い、自動車部品も東海・東北地区間を中心に堅調に推移した。また、食料工業品では、関西発北陸向けのビール輸送が順調に推移していることに加え、北海道・新潟地区発等で菓子類の輸送が好調となったため、前年を上回った。

一方、紙・パルプが印刷紙・コート紙の需要減少および定期修繕実施月変更等により、前年を下回ったものの、コンテナ全体では前年比104.0%となった。

車扱については、石油が配送圏の見直しに伴い鉄道へのシフトが進んだことから、前年を上回った一方で、セメント・石灰石は需要減少等により大幅な減送となった。

その結果、車扱全体では前年比 101.3%となった。
コンテナ・車扱の合計では、前年比 103.3%となった。

組合・紙の需要減により、紙・パルプが低調になることは、前々から予測が出来た。今後の動向が懸念される。好調に推移した自動車部品関連だが、大手自動車メーカーの無資格者による検査問題で、今後、売れ行きが下がるのではという懸念もある。また、今の若者の車離れは深刻で、いつまでも好調な数字を残せるとは思っていない。石油輸送が好調だが、下期、暖冬ともなれば、大きく落ち込み、一年トータルで見れば、マイナスになる要因はある。また、自動車業界は、低燃費車を次々と開発し、電気自動車も今後普及してくる。石油関連も今後、厳しい局面がくるのではと危惧している。セメント・石灰石が大きく落ち込んだが、オリンピック需要等で、セメントは伸びると思うが。

会社・セメントは名古屋地区によるものである。生産地の近場で需要があり、鉄道までまわってこなかった。オリンピック需要は、あると考えており、建材輸送等を含め、いろんな面で取り組んでいく。

組合・家電等も需要が見込まれるので取り組まれない。

会社・了解した。

組合・4月から今日までを振り返り、ほぼ予想通り推移したのか。また、今後の懸念材料や期待できる中身を教えてください。

会社・上期に関しては、7,8月と輸送障害があり、マイナスになったが、それ以外は堅調に推移した。9月、台風18号の影響で日豊線被害はあったが、その他は週末だったこともあり、影響は最小限に留められた。
懸念材料は、大手自動車メーカーの検査問題、また大手製網会社のデータ改ざん問題で、現在は影響が出ていないが、今後どうなるのか、動向を注視したい。
お米の生育状況が悪い。今後の動向が気になる。
期待する中身は、現在、私有コンテナをもっと効率的に使えないか議論している。「行きは積みで帰りは空」という私有コンテナが多く存在し、「空」を「積み」にしたい。自社のコンテナを他会社に貸して、荷物を運ぶというのは、今でも極少量であるがやっている。しかし、どこの区間が空いてるのか、はっきりと提示出来ていなかった。JR貨物として、何か出来ることはないかと考え、10月中旬から、IT-FRENZを使い、私有コンテナの回送状況を出すようにした。しかしながら、私有コンテナを他会社に貸すということで、クリアしなければならない問題が多々あるが、一つ一つ解決していき、今後につながればと期待している。JR貨物も含め、多方面の業者が利益を得る、そんな仕組みが出来ればと考えている。

組合・良い考えだと思う。お互い、WIN-WINになれば、活性化にもつながる。是非頑張ってください。

会社・了解した。

ここからは、総務部。

組合・今日は収入動向なので、踏み込んだ話はしないが、組合員の期待は大きい。前段で中間決算の経協を行ったが、数字は出ている。収入状況も悪くない。これに見合った数字を示してほしい。次回、会社の考えとなるが、満足のいく内容を期待する。

会社・貴組合の主張は承った。次回、会社の考えを示したい。

次回は、11/9、会社の考えです。

以上
